



森のなかま

2019年 11月号
NO. 139 (継続284号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 久保 重明
〒243-0018 厚木市中町2丁目13番14号・サンシャインビル6階604号 TEL046-297-0301・Fax046-297-0302

《日本触媒・湯河原万葉の森》活動紹介

日本触媒の森事業部 部長 内野ミドリ(9期)

日本触媒の森事業部が(公財)かながわトラストみどり財団から委託を受けて活動拠点としている『日本触媒・湯河原万葉の森』は、標高300~700mにあり主にヒノキが育つ湯河原町の所有林です。

株式会社日本触媒様が2013年11月に開所式をおこない、森を通して森林整備と自然環境を学ぶ場として社員やそのご家族が参加して活動しています。また、活動には年1回湯河原町民も参加して交流しています。

当事業部の活動は、年3回(5月、7月、10月)の森林整備体験活動の支援と指導を主にしていますが、活動内容の提案や支援に必要な準備作業、森林の整備・調査活動、エリア内の環境整備活動、情報発信(森だよりの発行)などもおこなっています。

本号で秋季整備活動の様子を紹介する予定でしたが、台風19号の影響や当日の気象情報を基に検討した結果中止になりました。折角の機会ですから、今までの活動の様子を紹介いたします。



日本触媒の森事業部メンバー 部長 内野⑨、副部长 辻村⑨、坂齋⑦、女川⑨、水津⑨、水口⑨、上宮田⑪、石川⑫、岩田⑭、黒川⑭、鈴木⑭、石垣⑮、河西⑮、西村⑮ 以上14名(写真松本⑪元メンバー、内野⑨)

間伐 当初樹齢33年のヒノキでしたが、成長して年々手強くなっています。



植栽 2013年に少花粉スギを、2014年にクヌギとコナラを植えました。ご家族連れや湯河原町の方も一緒でした。



元気に育つ苗



クヌギとコナラの紅葉

下草刈り

植栽した苗を雑草や灌木から守るために下草刈りをしました。



樹木の成長は目を見張るものがあります。



経路づくり・ベンチとテーブルづくり



クラフト・自然観察・シイタケ栽培など



水源整備

お子さんが安全に遊べるように整備しました。



毎回お子さんが参加しますので楽しみながら自然体験ができるように工夫しています。

インストラクターの活動



始業前のミーティング



森林インストラクターとして信頼していただけるように各々が得意分野の力を発揮しながら、メンバー全員のレベルアップを心がけて活動をしています。

日頃、活動の折々に撮影した写真を編集した「花ごよみ」も制作しました。調査により草本 160 種・木本 140 種の植物が見られましたが、うち 2016 年 3 月発行では 79 種を、2019 年 5 月増補改訂版発行では 41 種を追加掲載しています。いきもの 43 種も新たに掲載しました。活動の成果物だと思います。

活動に関心のある方は一緒に活動してみませんか。

『湯河原万葉の森の周辺』

(周辺には有名な湯河原梅林、源頼朝ゆかりのしとどの窟、クスノキの純林などがあります)

白銀林道入口ゲート



しとどの窟入口



しとどの窟



クスノキ純林



湯河原梅林と暮山



令和元年度 第2回 やどりきの森に行こう！

テーマ：溪流に棲む生き物を探そう

場所：松田町やどりき水源林

実施日：令和元年9月21日（土）

参加者：15名

<記録：井出恒夫1期、写真：井出恒夫1期、水口俊則9期、國弘明子14期>

前日までの予報では雨の可能性が高かったが、当日は曇り空ではあったが雨も降らず、本年度第2回目の「やどりきの森に行こう」を開催することができた。参加人員は15名(親子連れ4組、子供6名)。9時30分には予定通り開会式を行い、午前中の活動内容は、「水生生物観察」と「清流ウォーク」。ストレッチ体操の後、子供は安全のためライフジャケットを装着し、実施場所の後沢出合いに向かった。

水生生物観察

網の使い方、採取方法の説明の後、沢に入り水生生物の採取を行う。カジカやサワガニなどが見つかるたびに子供たちの歓声が聞こえる。網で採取した生物はバケツに移し、30分ほどして広場に戻る。広場のテーブルでバケツから容器に移し、生き物を見つけ出す。サワガニ、カジカ、カワゲラの幼虫、サナエトンボの幼虫、プラナリアなど多くの生き物が見つかった。プラナリアの再生の話に子供達は興味津々、質問をぶつけてくる。



沢の中で水生生物採集



容器に移し生き物を見つけ出す



色々な生き物が見つかりました

清流ウォーク

イベント開始前に下見を実施し、足場の確認、歩行の妨げになる植物の除去などを行う。雨で増水していたため、コースを半分にして途中から癒しの森に入ることにする。安全のため全員ヘルメットを装着して実施。



寄沢ぞいに清流ウォーク



水の中から聞こえる音



滝郷の滝

ウォークの後は木の枝で水の音を体感。カランコロンという不思議な音を皆さん熱心に聞き入る。午後は滝郷の滝を見学。帰り際にはイベントの締めくくりとして丸太切りに挑戦。色々な体験ができて楽しかったとのお声をいただいたが、清流ウォークでは、浮石が落下して参加者の足に当たるといったトラブルがあり、かすり傷程度で済んだが、雨の後の清流ウォークに課題を残した。



お父さんと一緒に丸太切り

やどりき事業部：佐藤①、水口⑨、上宮田⑩、古館⑬

インストラクター：井出①、菊地①、吉田⑩、國弘⑭、藤井⑭、牧石⑭

自然観察部会 第 9 4 回森林探訪 共催 (丹沢大山自然再生委員会)

『大山阿夫利神社・下社』

日時：令和元年 9 月 28 日 (土) 9:00~16:00 晴れ 参加者：28 名

場所：秦野駅⇒蓑毛 (バス停) ~大山阿夫利神社・下社~日向薬師 (バス停) ⇒伊勢原駅
看護師 上田様

インストラクター 女川⑨、小笠原⑩、上宮田⑪、赤崎⑫、小池⑬、長尾⑭、西岡⑮、牧石⑯、
山口⑰、河西⑱

＜記録 河西 静夫 15 期 写真 山口 正志 14 期＞

令和最初の森林探訪は丹沢大山自然再生委員会との共催で、大山阿夫利神社・下社を中心に据えたコース「大山参り蓑毛のみち」でした。これは、蓑毛から大山裏参道を登り、展望の良い阿夫利神社下社と見晴台を経由して日向薬師へと下る神奈川県内に 17 コースある関東ふれあいの道の 16 番目のコースです。

9 月に入ってから毎週末天気が悪かったのですが、この日は天候に恵まれました。参加者は千元院前のスペースで受付し、班毎に体操を終えるとゆっくりと蓑毛越に向かって登り始めました。水源林として管理されている人工林の中を進みます。登山道横には溝のような旧道の名残がありました。マルバフジバカマ、ヤマホトトギスなどを見ながら約 1 時間の登りで、蓑毛越えに



到着。小休止の後下社に向かいました。苔むした石垣の道を江戸時代の大山詣りに思いを馳せながらの約 1 時間の行程です。タテヤマギク、キントキシロヨメナ、タマアジサイ、ホソ



エノアザミ、モミヤスギの巨木を観察しながら下社に到着しました。江戸期には年間数十万人が訪れたとされる大山。下社からは大山詣りの後に「精進落とし」を楽しんだとされる藤沢方面の展望も楽しみました。



アキノギンリョウソウ

お昼休みは見晴台までさらに約 40 分歩いた午後 1 時ころ。ここから望む大山には雲がかかり、涼しい風が吹いて、長かった前半の行程の疲れを癒してくれました。東の間のお昼休憩後は下り道。しばらくアブラチャンの道を行くとつづら折りの長い下りに突入します。登山道脇のカシワバハグマの白い花に励まされながらの下り道。参加者の中にはこの下りが応えた方もいらっしやった様子ですが、幸い転倒事故などもなく無事に下山することができました。日向薬師周辺はちょうどヒガンバナが見ごろを迎えており、下山後の余韻に色を添えてくれました。



阿夫利神社より

なお、行程の途中で参加者 1 名が体調を崩され、帯同いただいていた上田看護師のお世話になりました。この方は同行者と共にエスケープルート (下社からケーブル) にて下山し、後日大丈夫だったとの連絡をくださいました。インストラクターの状況判断と初期対応が正しかったこと、看護師さんにご同行いただいていたことで大事に至らなかったのだと思います。



タテヤマギク

活動短 信

今回の掲載はR1年8月31日～9月8日分です。
寄稿頂いた中には、紙面都合や寄稿タイミングで次号以降の掲載になるものもあります。

11月(旧暦十月)の二十四節気

立冬 11/7頃

小雪 11/22頃

暦の上では、いよいよ冬
到来です

寒い地方では、雪が降
り始めます。

活動短信用の投稿概略フォーマットと略語の説明
ページレイアウトは気にせずベタ書きで結構です。
(できればWord、メール直筆でもOK。Excelはできるだけ
避けてください。改行等の処理に手間を要しますので
写真もあれば1枚添付ください。

◆ 活動団体・活動名 等

日付(できれば時間と天気も)

場 場所 (例:相模原市緑区 長竹承継分収林)

参 参加者 人数

県 神奈川県 環境農政局 緑政部

水源環境保全課 水源の森林推進グループ

財(公財)かながわトラスみどり財団、看 看護師

スタッフ 例 小田原市森林組合XX様

例 川崎市公園緑地協会・XX様

イ インストラクター (○数字:期) 研:研修枠

以下の本文を概ね400字前後を目安として執筆ください
リーダーは責任を持って執筆者の選択と執筆後のチェッ
クをお願いします。(執筆者もお忘れなく!!)

活動終了後の速やかな投稿をお願いいたします。

◆ 2019年度かわさきの森づくり 第9回

日 8月31日(土) 9:30~12:00 晴

場 川崎市高津区下作延 下作延西谷緑の保全地域

参 17名

スタッフ 川崎市公園緑地協会他 7名

イ 小野⑦

緑ヶ丘霊園噴水広場に9時集合後当日の作業場
所、作業内容等の説明を受けて下見の為、霊園外周
部の現場に向かい3班の区分けを実施。ヤード内は
上部は平坦、下部に向かって緩傾斜でケヤキの大径
木やカシ類等の雑木で薄暗い状況、参加者は当日の
除伐対象木であるアオキ、シュロ、雑木を鋸にて除
伐し集積した。途中の休憩時に小野が江戸期天明時
代に英国に持ち帰ったアオキに実が付かず騒ぎにな
ったが実は雄木だった有名な話やイチョウなどの身
近な雌雄異株についてふれた後作業を再開した。ロー
プ掛けするような高木の伐採は無かったが孟宗竹
を倒す時の注意の掛け声など林内は終始元気な声
が響いていた。

伐採と散乱する枝類の集積等作業は順調に進み予
定時間には全て終了。見違えるほど明るくなった林

内からは高台の眺望も効くようになった。感想で
は唯一参加の、小学生から「大変楽しかった、又参
加したい」との嬉しい発言も有り参加者の皆さん
夫々達成感ありの活動だったようです。

(記 小野 幸広⑦)

◆ 中川西小 愛川ふれあいの村 「木のラリー」

日 9月4日(水)13:00~15:00 晴

場 愛川ふれあいの村

参 大人10名 小学4年生95名

イ L堀江④ 小野⑦ 渡部⑦ 内野⑨ 松本⑩

永松⑫ 西出⑫ 松石⑬ 牧石⑭ 石垣⑮

本日の活動は村内の樹木を対象とした木ラリーで
ある。インストラクター10名は12時に集合して昼
食後活動内容の再確認を行った。各自は8月20日
の下見時に決めた担当の樹木について夫々工夫を凝
らした樹名版や該当木の詳しい説明資料など持参し
てスタートに備える。事務所前での開始式後インス
トラクターは各担当樹木脇で生徒の到着を待った。

生徒は表の地図により12本の対象木を探し効率
よいコースを皆で相談しながら搜したようである。
樹木名札の樹名を落ち葉や樹形など参考にして「木
ラリー」表の中から探して記入、待機しているイン
ストラクターが確認して該当木の特徴、用途など説明後森林の
話等織り交ぜて解説、如何に生徒さん方に耳を
傾けて頂けるか臨時教師役も熱が入った様である。

楽しかった、木の事をたくさん学べたなどの声
も多かったようで林間にこだまする元気な声と吹
き抜ける微風に癒された活動でした。

(記 小野 幸広 ⑦)



かながわしずくちゃん Facebook は下記URLで見ることができます。

かながわの水循環の
保全・再生をめざして

<https://www.facebook.com/kanagawa.sizuku>

森のめぐみの掲載は、
今月号はありません。
次掲載は12月号です。

森のめぐみ シリーズ

◆ 横浜市立山元小学校

環境・エネルギー・学校派遣事業～かながわ環境教室～

「土の中の生き物ウォッチング」

- 日 9月5日(木)、曇り
 場 横浜市中区山元町3-152 山元小学校
 参 6年生1クラス34名と教師1名
 1 L井出①、堀江④、足立④、宮本④、星野⑬

山元小学校は市街地にありますが、校内に300坪の畑があり毎年野菜を育てています。今回、学校の「畑」および「草置き場」の中にある土壌生物の調査を行いました。1クラス34名を6班に分け、班毎に畑と草置き場の土を採取し、その中にある生物を捕獲し、ワークシートに記入していきました。

土壌生物は環境変化に強いかわ弱いかで点数化されており、見つけた生物をワークシートで点数化し集計することで、その土地の「自然の豊かさ」を知ることができます。今回の調査で畑と草置き場では、草置き場の方で多くの土壌生物が見つかり、草置き場の方が生き物による植物の分解・栄養の創出が盛んであることが分かりました。

調査後の解説で、土の中の生き物と植物との関わり、栄養の循環、畑の栄養（肥料）について解説を行いました。今回の授業で、普段目にすることが少ない土の中の生き物の役割を伝えることができ、学校側の希望である「栄養のある土づくりに生かしたい」という希望にある程度答えることができたと思います。授業後子供たちに「楽しかったか?」と聞いたところ、大きな声で「楽しかった」という返事が返ってききました。

(記 井出 恒夫 ①)

◆ 座間市芹沢公園

森づくりボランティア活動（下草刈り）

- 日 9月7日(土) 9:30～12:00 晴
 場 座間市栗原 芹沢公園
 参 36名（うち子供2名）
 スタッフ 座間市役所公園緑政課 高橋様、澤田様、安藤様、西田様
 1 小野⑦、末原⑮


例年開催される当イベントも19回目を迎え、今年も事前申込みされた36名の参加者を集め下草刈りが行われました。二年前にリニューアルオープンした管理棟で開会式が行われ、準備体操を行った後二班に分かれ現地作業を行いました。作業場所は昨年同様一般の人がジョギングや散策等で行き来する

遊歩道沿いで、歩道に沿って西側がせり上がる地形となっており、近接・上下作業の禁止と、小まめな休憩や水分補給等を注意事項として作業に臨みました。参加者は小鎌あるいは大鎌を使用し、間隔を空けて遊歩道沿いや



斜面を覆っている下草を順次刈り進め、約1時間弱で予定していた範囲の作業を完了しました。終了後は屋内に移動し森林講話の時間がもたれました。小野インストラクターからは「竹」をテーマにその様々な用途、特に「鉄筋」ならぬ「竹筋」としてかつては橋梁にも使用されていた歴史があることの紹介を、末原は「シダ」をテーマに、その特徴とラグビー強国との関わり?についての話を行いました。最後に参加者へは緑化グッズと共に証明書の授与が行われイベントを終了しました。熱心な参加者の方々と企画・実施等ご担当される市職員の方々の継続的な支援により、20回目を迎える来年以降も当活動が続いていくことを祈念いたします。

(記 末原 興一 ⑮)



丹沢の自然再生に取り組む 丹沢大山自然再生委員会のホームページをご覧ください。 <http://www.tanzawasaisei.jp/>

◆ 県民参加の森林づくり（除伐）

みどり財団、21世紀の森との共催活動

- 日 9月7日(土) 9:00～13:00、快晴
 場 南足柄市内山 21世紀の森
 (どんぐりコースを下る途中の除伐作業)
 参 16名(大人16名)
 財 大木様、
 21世紀の森 辰巳所長、加藤様、弘島様
 看 青木様、佃様
 スタッフ 箱根水道パートナーズ 東島所長様他3名
 1 L 柏倉④、滝澤⑤、黒川⑭、湯浅⑪、古舘⑬、上宮田⑪、吉田⑪、石川⑫、佐藤⑤、水野⑭

涼しい朝を迎えた当日でしたが、日中は厳しい残暑の中、21世紀の森との共催で自然観察路「どんぐりコース」の除伐を行いました。

募集人員50名に対し、参加者16名と少ない人数で作業をすることになったため通常の活動と比べ、参加者とインストラクターとの緊密なコミュニケーションを図ることができました。

21世紀の森の駐車場で受付後、3班編成で自然観察路「どんぐりコース」へ向かいました。真竹を中心とした除伐作業ですが、青木、ヒノキ等の除伐もあり、参加者には竹引きノコ、間伐ノコの両方を渡したので、通常の活動と違うと感じた方もいました。少人数の作業でしたが約2時間余で作業を終了し、すっきりとして見晴らしも格段に良くなった路肩部分を見ながら成果を確認しながら帰路につきました。

昼食時は、参加者と一緒に活動の感想や要望、意見等を聞き、概ね好評でした。看護師さん2名が、蜂に刺されるというアクシデントがありましたが、参加者には怪我等をした人はなく無事に家路につきました。(記 水野 安則 ⑭)



◆ 鈴廣蒲鉾本店様 間伐体験

日 9月7日(土)
場 やどりき水源林フィールド
参 鈴廣蒲鉾様のお客様 大人12名
スタッフ 1名、
県 高橋様
イ L牧石⑭, 石井⑮



木立の影が長くなり、強い日差しを遮ってくれる快適なやどりき水源林。お集まり頂いたのは鈴廣蒲鉾様の「お客様」でした。予想外な事にリーダーと少し戸惑いましたが、皆様の楽しそうな雰囲気直ぐにスイッチが切り替わり、6名2班に分かれて現場へと向かいました。鈴廣蒲鉾様のエリアは間伐が進み、伐倒可能木が少ない事から、少し離れた後沢を登ったところでの間伐になりました。

参加者の方々は御年配の方が多く、現場までの山登りが心配でしたが、途中休憩をする事もなく元気に登って来られました。

参加者の方々は御年配の方が多く、現場までの山登りが心配でしたが、途中休憩をする事もなく元気に登って来られました。

現場へ到着後、早速作業へと思いましたが、皆様の体力的な様子と伐倒木が急斜面にあることを鑑み、私一人でやる事を決断。説明をしながらの作業は初めてでしたが、関心を持って見ていて下さる皆

様に励まされ、無事に伐倒完了。枝払い玉切りが終わった頃にはヘトヘトでしたが、皆様の満足そうな様子に一安心。

耳を澄ませば沢山の虫たちが鳴いており、下山を始めた私達を元気づけてくれる様でした。

(記 石井 裕⑯)

◆ 「かわさきの森づくり」 第10回

日 9月8日(日)
場 川崎市多摩区生田生田寒谷特別緑地保全地区
参 23名
スタッフ 川崎市公園緑地協会他 6名
イ 小野⑰

活動場所は小田急線生田駅北口から住宅街の坂道を登った小高い山である。当地は多摩区内では最も標高の高い場所の様で眺望も優れベンチ等も設置されていて地域住民の憩いの場所となっている素敵な場所である。


毎月第2日曜日には地域住民有志による保全活動も行われているとの事で機会があったら是非参加したいと思った。

午前9時に協会職員より作業内容の説明を受けた後作業区域の下見を実施。作業は笹(アズマネザサ)刈り、アオキ、シュロの除伐で希少植物のタマノカンアオイ等に留意の要請あり。

10時半には全体休憩と講話、内容は小野が「飲料水の話」を適宜質問などを交えて実施した。終了予定の11時半には各班とも担当区域の作業は終了し用具の手入れ、意見交換の後今後の活動チラシ配布にて活動終了

尚、頂上近くの一角を萌芽更新モデル地区とする構想があり今後対象木のコナラ等の保全に留意する事などの説明があった。台風接近の怪しい空模様でむし暑い状況の中、参加の皆さんしっかり汗を流して頑張って頂き驟雨前には帰途についた。

(記 小野 幸広⑰)



かながわ森林インストラクターの会は『緑の募金』の支援団体としても取組んでいます。
 全国で5番目/NPO法人で初めて委嘱されています。

やどりき水源林ミニガイド

台風 15 号、19 号被害状況

神奈川県を直撃した 2 つの台風により、いたるところで倒木、河川氾濫の被害をもたらしました。被害にあわれた方にお見舞い申し上げます。

当会が関係するフィールドも各所で、アクセス道路の不通、フィールド内の倒木等で危険な箇所もあります。

活動参加前に下記「みどり財団」にお問い合わせください。

●問合せ:

(公財)かながわトラストみどり財団

TEL: 045-412-2255

FAX: 045-412-2300

●ホームページ: <http://www.ktm.or.jp>

E-mail: midori@ktm.or.jp

●やどりき水源林の台風被害の状況をお知らせします。

1. 寄沢護岸崩落

①広場の下

②管理棟—集会棟

道路の下の土がえぐられた

③集会棟—休憩棟



①

2. 周遊歩道の損傷

④周遊歩道 B の沢越えの通路に、損傷があります。



④

3. その他 各所で倒木、土砂崩れ多数あります。

(報告・写真 古館⑬、滝澤⑤、飛田⑮)



編集後記

★台風があらこちらの山々に傷を残していきましたが、それでも木々には頑張って錦色に変わる季節になって欲しいです。(笠原)

★令和の記念五百円コインが出たとのこと。2種類の金属を接着し新しい色合い。新時代の予感を彷彿させる出来だ。図案はとてもおとなしいので、未来と古来の融合か。(吉田)

★自然の優しさにふれあうことは人生を豊かにすると思ってるのですが、台風 19 号では自然の脅威を思いっきり知らされましたね!!

被災された方にはお見舞い申し上げます。(阿藤)

★故郷信州の県歌信濃の国の二番の一節に「———流れ淀まずゆく水は 北に犀川千曲川南に木曾川天竜川 これまた国の固めなり」とありますがその中で一番おとなしい川だった千曲川が氾濫しました。信じられない出来事です。モンスター台風です。これからもあるのでしょうか。(松本)

★長年の思いが叶ったラグビーW杯 8強。10月は夢のようなひと月でした。しかし台風被災者にとっては、悪夢のひと月です。君津市や、やどりき水源林を見て、複雑な気持ちです。(竹内)

★10月は、台風被害・ラグビーW杯・天皇即位の礼など大きなニュースが飛び交い荒ただしいひと月でした。今月は、ほっとできますかね。(黒川)

年間通読のお申し込み

「森のなかま」年間通読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込み下さい。

郵便振替口座 00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会宛まで 2000円をお振込み下さい。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記して下さい。振替用紙到着の翌月号から 12 回 / 1 年間お届け致します。

編集人: 黒川 敏史

広報部: 吉田郁夫 松本 保

笠原かずみ 加藤優美、阿藤壽孝、

竹内明彦、柳澤千恵美

支援: 伊藤恭造 大原正志 江頭淑子

◇ 森のなかま原稿募集 ◇

会員読者の皆様から広く募集しています。

原稿は随時受付けています。

<広報全般についてのお問い合わせ>

黒川 敏史

Mail: kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp

Tel: 080-5477-2206

<電子配信会員向け担当> 笠原

Mail: happy_kumakuma711@icloud.com

<電子配信企業等パートナー様向け担当>

柳澤 Mail: cherril@gk9.so-net.ne.jp

森のなかまは過去号もご覧になれます。

(ホームページ) <http://www.forest-kanagawa.jp/3kiroku.html#kiroku01>

(HP 担当: 井出恒夫)

<メール・手書き原稿送り先>

【本誌】黒川 敏史

Fax: 0467-46-8650

電話連絡先: 080-5477-2206

Mail:

kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp

【別冊】阿藤 寿孝

Tel: 045-433-4413

Mail: hisa-ato2@22.netyou.jp